

国会で実現できた政策と実現に向けて取り組んでいる政策の一部を紹介します

実現に向け 前進

「教育国債」政府で検討開始

子育て支援策の充実と、教育の無償化や高度化に向けた財源の確保が課題となっています。私は、かねてからこういった予算の財源として、「一時的に「教育国債」を発行して、当面の予算を確保して、一気に子育てや教育の環境を整備すべきだと訴えてきました。

報道によれば、政府は「こども特別公債」という名称で、子育て支援予算増の一部を賄う方針に転換したとされており、私たちが訴えてきた「教育国債」の提案の一部が実現に近づいたと言えると思います。



予算委員会での齋藤アレックスの発言

実現に向け 前進

「年収の壁突破給付」実現に前進

非正規雇用で働く方々の賃上げを推し進める上で大きな障害となっているのが、3号被保険者の方（2号被保険者の扶養配偶者）でパートなどに働きに出ている方が社会保険料の負担が発生しない範囲で就業時間を抑えてしまう、いわゆる「年収の壁」問題です。

本来は、社会保険制度改革を行って、働き方や家族構成に中立的な、公平な制度に変えるべきですが、労働力不足に対処し、そしてパート労働者の賃上げを実現するために、時間的な給付措置で「年収の壁」問題を乗り越える提案をしました。



予算委員会での齋藤アレックスの発言

全力で 取り組み中

公共交通機関の維持を強く求める

コロナ禍の影響も重なって、地方の公共交通機関、特に路線バスの経営が危機的な水準にまで悪化しています。滋賀県においても路線バスの減便や路線廃止の議論がさらに進むことが懸念されており、公共交通機関の維持に向けて、政府のより積極的な関与が必要だと訴えています。

また、いま出ている補助金の単価に地域間での格差があり、例えば大津市と隣の京都市では3割程度も大津の方が補助単価が低

く設定されています。大津市側ではより経営が厳しくなり路線が維持できないといった声をバス事業者からもうかがっており、地域間格差の是正を強く求めました。国交大臣には地域間格差の問題を受け止めてもらいましたので早期の格差是正と路線維持の実現に向けて取り組みを続けていきます。



国土交通委員会での齋藤アレックスの発言

全力で 取り組み中

賃上げ拡大に向けた政策を提言

物価高の影響もあり、日本でも賃上げの機運が高まり、今年の賃上げは30年ぶりの高水準になっています。失われた30年と呼ばれる日本経済の長期低迷を終わらせ、働く人と、これから社会に出る若い人、そして年金で生活されている高齢の方々が希望をもって暮らせる日本にするためには、この賃上げを来年以降も持続させていくことが必要です。持続可能な賃上げの実現

に向けて、中小企業での賃上げ、非正規雇用での賃上げなども含めて、徹底的に賃上げ政策を行っていかねばなりません。公党で唯一政策のトップに「賃上げ」を掲げている国民民主党として、来年以降の賃上げの継続・拡大を最大の目標に、政策提言を続けていきます。



予算委員会での齋藤アレックスの発言

一部 実現

「電気・ガス料金高騰対策」を実現

ロシアのウクライナ侵略の影響や、異次元の金融緩和の副作用としての円安によって、国内で急激な物価上昇が起きています。昨年の予算委員会では、物価高対策として電気・ガス料金の抑制策を強く求めて、本年1月

から一部実現が実現しました。引き続き物価の動向を注視し、必要な対策の提言と実現に全力を尽くしていきます。



予算委員会での齋藤アレックスの発言

全力で 取り組み中

「思いやり予算」見直しを提起

中国の軍事力の強大化、ロシアのウクライナ侵略などを受けて、G7をはじめとする民主主義国とともに、日本も外交・防衛努力を強化していくことが極めて重要になっています。

安全保障委員会においてこの点を提起したところ、「思いやり予算（同盟強靱化予算）」の見直しに関しては、与党の議員からも同調する発言がありました。日米地位協定の改定を含めて、ライフワークとして引き続き取り組んでいきます。

そして、日本の防衛力強化は、日本が在日米軍の駐留経費を負担している「思いやり予算」や、明らかに不平等な「日米地位協定」といった日米同盟の問題点を見直していくチャンスにもなります。



安全保障委員会での齋藤アレックスの発言



上の発言を受けての、与党議員の発言